

2020.10
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

10号

第42巻

No.375



アケビ *Akebia quinata* Decne. (アケビ科 *Lardizabalaceae*)

生薬 モクツウ（木通） 花のある時期に太い茎を採取し、輪切りにして陽乾する。

成分 トリテルペノイドサポニン：akeboside Stb-f, Sth, Stj, Stk、ステロール類：stigmasterol、 β -sitosterol、betulin 等。

効能 利尿、排膿、通経、消炎の作用があり利尿、関節リュウマチ、神経痛、月経不順に用いる。竜胆瀉肝湯などの漢方処方に配合される。



生薬 モクツウ（木通）

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



第17改正日本薬局方に収載されている「木通」は国内に野生するアケビとミツバアケビ(*A. trifoliata*)の2種が規定されています。アケビは本州以南、四国、九州と朝鮮半島、中国に自生するつる性落葉木本でつるは長く伸びて分枝し、3 m以上になります。茎は太いもので径約1.5cm、表面は灰褐色、主に薬用として利用します。春早く芽吹く新芽を茹でてお浸しや蒸してから乾かしてお茶にします。山城の国鞍馬山の「木芽漬」はアケビの若葉とスイカズラの葉とを塩漬けにしたものです。葉は新枝に互生し、掌状複葉で長柄があり、小葉は5枚、種小名の*quinata* (5小葉の)の語源になっています。各小葉は長楕円形で長さ3 - 6 cm、先端はわずかに凹入、

全縁、やや革質です。総状花序は短く、短枝の葉間に生じて下に垂れ、淡紫色の単性花を4 - 5月頃開きます。雌雄同株で雄花は径約1.5cmで花序の上部(先)に群生、雌花は径2.5 - 3 cmで長梗があり花序の下部から斜下し、1 - 3花が付きます。液果は長楕円形で長さ5 - 8 cm、径約3 cm、果柄の先端に1 - 3個付きます。帯紫色に熟し、腹縫線に沿って開きます。口を開かないムベ(*Stauntonia hexaphylla*)に対し、口を大きく開けるムベから「アケウベ」、訛ってアケビになったという説や単に口を開く「開け実」が転じたという説などがあります。開いた果実そのものが女性の性器に似ていることから「あけつび」、「つび」は女性器を表し、「つ」が省略されてアケビになったという説もあります。魚津市を流れる片貝川の中流域に「山女」と書いて「あけび」と呼ぶ集落があるのは同じ語源からと思われる。『延喜式』(927)の「大膳職下、諸国貢進菓子」に「山城国葡萄一擔(約60kg)、大和国葡萄一擔、河内国葡萄一擔、摂津国葡萄二擔」とあり、葡萄はアケビの果実のことで、献納されていたことが記録されています。『本草和名』(918)や『倭名類聚抄』(931-937)、『医心方』(982-984)には「通草 和名阿介比加都良」とあり、漢名に対し古くから「あけびかずら」の和名が充てられていたことがわかります。『救荒本草』(1406)に「嫩瓜を採り、水を換え煮食す。樹にて熟する者もまた摘み食うべし」とあり、子供の頃、熟して少し開裂したばかりの種子を含んだ果肉を山で採って生食した記憶があります。口の中には多くの黒い種子が残り、吐き捨てていたことを思い出します。この種子からは高級な食用油が搾られ、高級天ぷら店で使われていたそうですが、1個のアケビから1 g程度しか採油できず非常に高価なものになったため使われなくなり、生産されなくなっていました。最近秋田で復活し、高級食用油として販売されていると聞きます。またひき肉やキノコ、野菜に味噌、砂糖、味醂で味付けしたものを果皮に詰めて油で揚げた山形の郷土料理があります。

もう一種のミツバアケビは北海道から九州、中国に分布し、形態はほぼアケビと同様ですが、茎の根元から地上を横走る細く、長い匍枝を出します。東北地方にはこの細い茎を採り、外皮を剥いだつるで籠などを編んだあけび細工があります。葉は3小葉で種小名*trifoliata*(3葉の)の語源になっています。小葉は卵形~広卵形で長さ4 - 6 cm、先端は鈍形、縁は波状の鋸歯があります。濃暗紫色の花は4 - 5月頃下垂する総状花序につき、雌雄同株で雄花は花軸の先に十数個付け、がく片は長さ3 mm、基部には長い柄のある雌花を1 - 3個つけ、がく片は長さ約8 mmです。果実は長楕円形で長さ10 cmほど、果皮は厚く熟すと紫色を帯び、内縫線で開裂します。上記2種の自然交配種と考えられるゴヨウアケビ(*A. x pentaphylla*)も自生しています。小葉が5枚(*pentaphylla*の語源)でアケビよりやや広く、葉縁に波状の粗い鋸歯があり、暗紫色の花はミツバアケビより淡く、やや大きくなります。(村上守一 記)